



Creative Application A16

メディア実装の基礎1

自分の思考を形にする「ノート」

2025年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

[A03] メディアとは

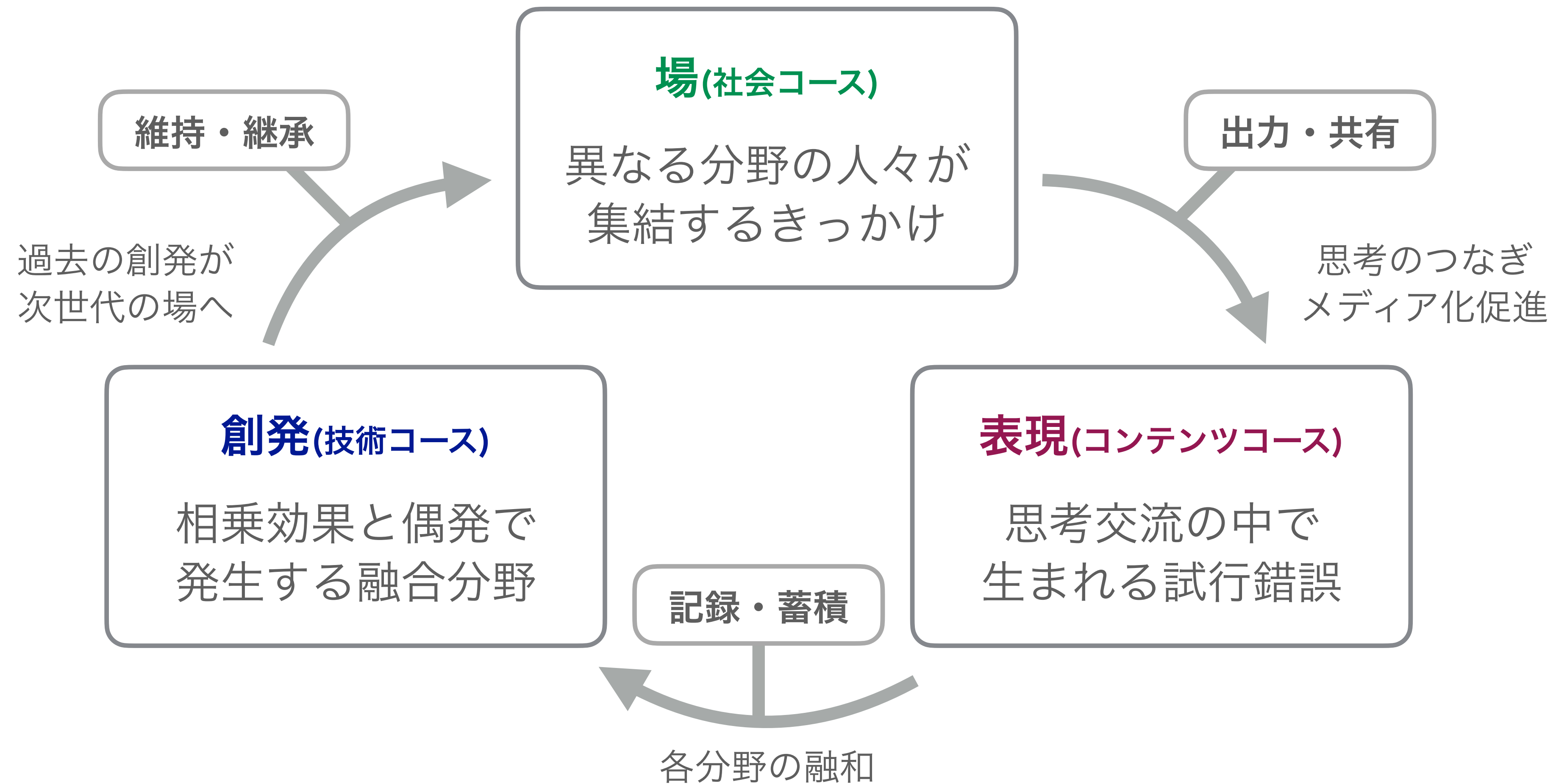
- ▶ **メディアはメッセージを伝える** (渡邊)
 - ▶ 受発信で**思考を外部につなげる状態になること**
- ▶ **メディア化 ⇔ 非メディア化**
 - ▶ 常にメディアなものはない, 状況で変化する
- ▶ **メディア化**の推進
 - ▶ **思考のつなぎの生成** (メディア学部の本質)

[A15] メディア実装 (2025渡邊)

- ▶ **メディア実装**

- ▶ **「複数分野の研究開発と実社会を結びつけて活性化し、
社会に有益な物事として実現すること」**

[A04+] メディア・サイクル



メディア学は3コースを横断することで本領発揮できる

本日のテーマ

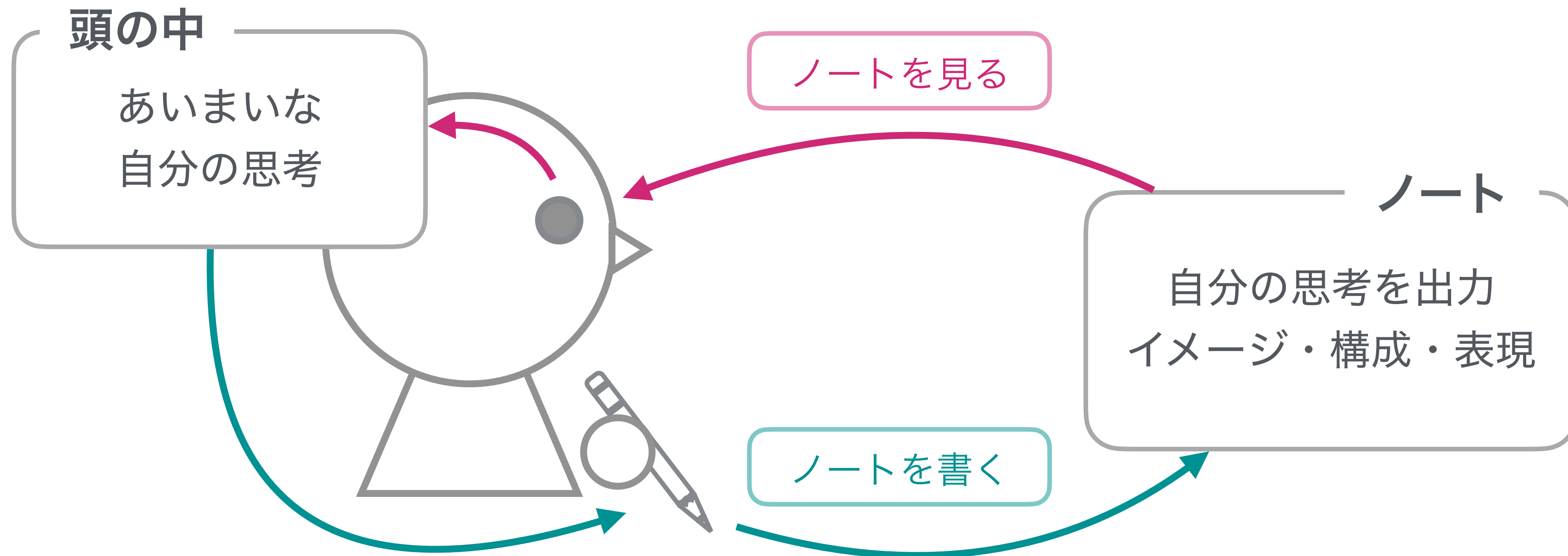
- ▶ **思考の入出力とフィードバックによる研磨**

個人の思考と交流

- ▶ 個人の思考の発見 [A02]
- ▶ 各自の思考を共有する → 社会の形成 [A03]
- ▶ Q. 自分は自分の考えを理解しているか？
 - ▶ A. 思うほどできていない
- ▶ 個人を尊重する前提として、**自分の思考の理解を深めることが第一歩**

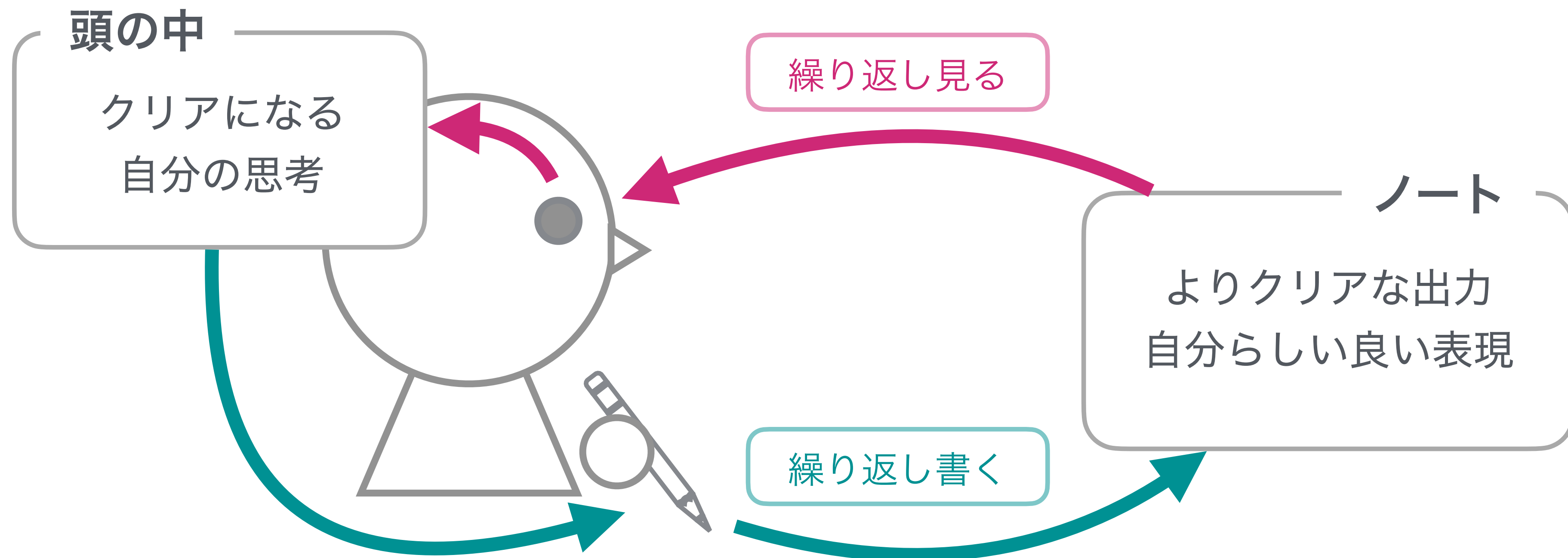
ノート1 - 思考の出力と入力

- 思考の可視化・整理（出力）
- ノートの出力から得るセルフフィードバック（入力）

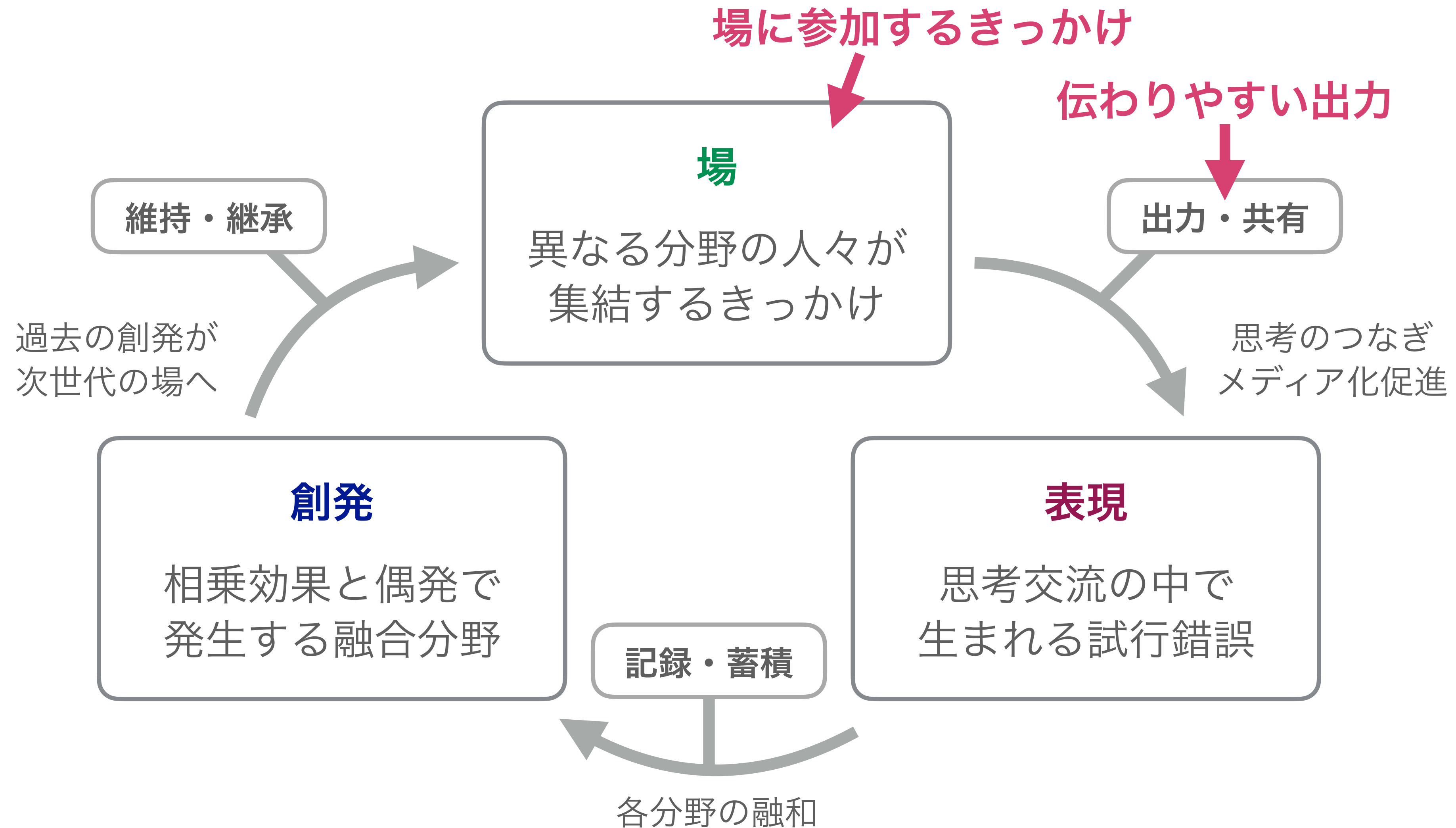


ノート2 - 思考の更新と研磨

- ▶ ノートを通して自分の思考の理解が進む（再帰）
- ▶ 再帰を繰り返し自分の考えを表現する適切さを増す（表現力の向上）



ノートとサイクル



まとめ

- 個人の思考は大切なものながら不明瞭である
 - 意識的に自分自身の考え方の理解を深めたほうがよい
- ノート
 - 思考の再帰（アウトプットと再インプット）
 - 繰り返しによる自分自身の確認・更新
 - 思考を他者に伝える力も向上サイクルに入りやすくなる
- メディア実装においては…
 - 伝わるものづくりをしようにも、伝えたいことがわからない状況を解消する

本日の談義・考察一助

- a. ノートは抽象的な概念であり再帰的入出力ができればよい.
具体的な出力手段を挙げてほしい
- b. ノートの障害となりうる課題はあるだろうか
- c. ノートを効果的に更新と研磨できる工夫を考えたい
- d. **ノートはどのようにメディア実装に寄与するだろうか**

次回予定

メディア実装の基礎2

主客の交差と相互作用 「メッセージング」

参考文献

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004